

平城宮京出土檜扇に関する研究

1 はじめに

平城宮・平城京内からはこれまでの発掘調査で多数の檜扇が出土している。今回は未報告資料について追加報告をおこなうとともに、若干の検討を加える。

2 平城宮東方官衙SK19189出土資料

平城宮東方官衙地区廃棄土坑SK19189からは第440次調査（2008年度）でコンテナ約2500箱の土壌が取り上げられ、現在も水洗作業が続いている。この土坑からは100点以上の檜扇と未成品が出土しており、工房の存在がうかがえる。そのうち代表的なものは既に『紀要 2009』『紀要 2014』で報告済みであるが、その後の水洗作業で確認されたもののうち、特徴的なものを報告する。その他の檜扇は観察表（表7）にまとめた。

図13の1～5は切断された檜扇である。いずれも下端から3cm前後の箇所まで切断されている。3は表と裏から刃を入れている。1と4は要に木釘が残り、3と5は植物質の紐で留められている。出土グリッドにまともではなく、完成したものをわざわざ切断して使用できなくする行為の意味は不明であるが、一定の意図を持っていたと推察される。

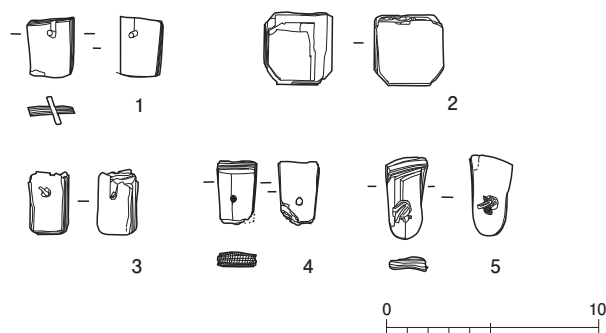


図13 平城宮SK19189出土檜扇 1 : 4

3 平城京左京三条二坊SD5100出土資料

平城京左京三条二坊SD5100出土の檜扇は平城京内全体の中で、確実に年代がわかるもののうち、もっとも古い資料群である。このうち6点は既に『学報第54』で報告済みである。今回は未報告の檜扇について述べる。

図14は5枚以上の骨が残存する檜扇で、復元長は30cm以上となる。骨の幅4.5cm、要部分の最大幅4.0cmと、平城宮・京内出土の中でも最大である。骨はいずれも裏表の調整はなく、割裂面のままであった。中央には2孔が開き、糸を通して綴じていたとみられるが、孔の径が大きい。檜扇の綴じ糸は絹糸であったと考えられているが、それよりも太い麻紐などを用いた可能性もある。これまで確認されていた檜扇とは異なるこれらの特徴から、携帯用ではなく室内で持たせて扇がせていたか、あるいは特別な使用用途があったのかもしれない。

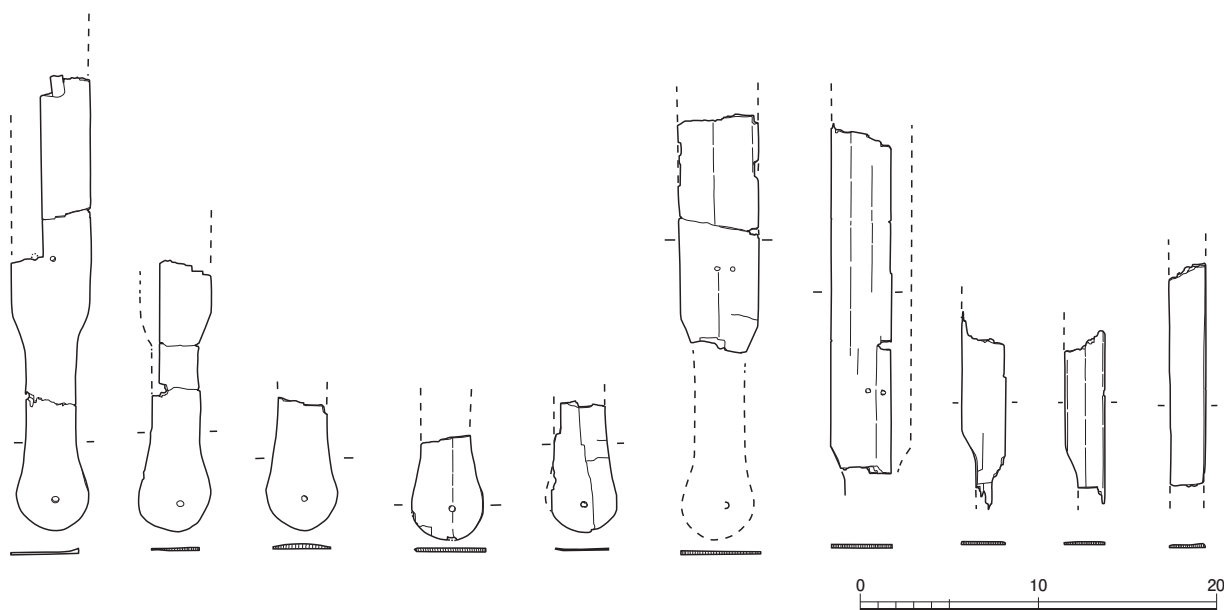


図14 平城京SD100出土大型檜扇 1 : 4

表7 SK19189出土檜扇

ID	枝番	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	木取り	要の形	綴じ	全体の形	骨の形	小地区	出土層位	備 考
39788	①	(7)	1.84		柃	ほぼ四角				JE29	木屑層44	4枚、両側に紐残る
39788	②	(6.5)	1.93		柃	ほぼ四角				JE29	木屑層44	①と木目似る
39790		(22)	4.87		柃			方扇	長台形	JE29	木屑層67	4枚。骨の片側に割り込みを入れる
39791		(7.4)	2.71		柃					JE29	木屑層55	親骨or方扇形
39794		(15.9)	3.13	0.09	柃				長台形	JE29	木屑層43	4枚
39801		(31.4)	4.3	0.04	板	角のある丸				JE28	木屑層40	未成品。39801、39803は同一材
39802		(27.5)	3.58	0.08	柃	角のない丸				JE28	木屑層40	先端折り取り？
39803	①	32.4	4.67	0.2	板	角のある丸		扇形	封緘木筒形	JE28	木屑層52	未成品。39801、39803は同一材
39803	②	32.4	4.58	0.11	板	角のある丸				JE28	木屑層52	
40506		28.7	3.1	0.17	板	四角？			封緘木筒形	JE29	木屑層55	要穴なし？
40507		(18.7)	3.27	0.17	柃		上部両側縁に2孔+切り欠き		封緘木筒形	JF28	木屑上層88	墨書あり
41616		(2.8)	2.11	0.11	柃	ほぼ四角				JF27	炭層	木釘留め 5枚 429次
41715		(9.37)	2.85	0.14	板		片側に切り欠き			JF27	木屑層	41715～41717は同一檜扇か
41716		(8.82)	(2.6)	0.14	板		片側に切り欠き			JF27	木屑層	41715～41717は同一檜扇か
41717		(9.29)	2.9	0.18	板		片側に切り欠き			JF27	木屑層	41715～41717は同一檜扇か
41981		(3.1)	3.07	0.06		左右対称の多角				JF29	木屑層79	13枚。要孔なし。刃物で切断
42045		(3)	1.47		板？	ほぼ四角				JF29	木屑層79	6枚～8枚？。両側に紐残る。刃物で切断
42046		(7.26)			板		片側縁に1孔			JF29	木屑層79	親骨？
44928		(22.8)	1.51	0.1	柃	角のない丸			長台形	JF28	木屑層78	開きの角度がほとんどない
45060		(8.1)	2.38	0.04	柃	角のない丸				JF28	木屑層76	4枚。片側に紐残る。2枚目別材
46013		(7.8)	1.8	0.1	柃					JE28	木屑層54	7枚。木釘留め
46611		(3.8)	1	0.07	板		切り欠き			JF29	木屑上層80	
51251		(4)	2.05	0.07	柃	角のある丸				JE29	木屑層55	10枚。表裏紐残る
56976		(9.9)	(1.9)		板					JE29	木屑層43	墨書有
57342		(12.8)	(1.8)		柃		切り欠き			JE27	炭層	墨書有。57343、57344と同一檜扇か
57343		(12.6)	(1.7)		柃		切り欠き			JE27	炭層	57342、57344と同一檜扇か
57344		(12.9)	(2.1)		柃		切り欠き			JE27	炭層	57342、57344と同一檜扇か
58874		(6.2)	(1.2)	0.1	板	丸？						要孔径5mm
59949		(32)	4.7		板			扇形	長台形	JE28	木屑層40	39801、39803と同一檜扇だが接合しない。割ったときの刃物痕あり。要部分失敗か
67435		(30.5)	2.2		板					JE27	木屑層51	下半欠損。要部分失敗か。67436と同一檜扇か。表裏調整丁寧。上端斜めに作る
67436		(19)	2.4		板					JE27	木屑層51	67435と同一檜扇か。接合はしないが形似る
68242		(4.3)	2.5		柃					JE27	木屑層39	割り込み加工
68679		(5.2)	1.5		柃	丸				JD29	木屑層32	3枚。68680と同一檜扇か。要孔径4mm
68680		(11.7)	2		柃	丸				JD29	木屑層32	3枚。2枚は要のみ。68679と同一檜扇か。要孔径4mm
68682		(3)	1.8		柃	角のある丸				JD29	木屑層32	要孔径4mm
76852		(6.4)	2	0.1	柃	四角				JF28	木屑層89	
79496		20	2.9	0.1	柃	四角			封緘木筒形	JE28	畦16層64	要孔、綴じなし。未成品？
79652		(3.78)	1.84	0.08	板	丸				JE29	木屑層43	6枚。両側に紐残る。要孔大きい。刃物で切断

4 おわりに

平城宮・京内出土檜扇を集成し検討したところ、奈良時代前半は平城宮に近い上級貴族の邸宅からしか出土しないことや¹⁾、京内全体からの出土は奈良時代後半に集中することがわかった。しかし、この分布は、京内の発掘状況や当時の人口にも影響を受けている可能性があることを留意する必要がある。

また、SK19189出土檜扇の要部分に着目し形態分類をおこなった結果(図15)、平城京内出土資料はすべてその分類に当てはまることがわかった。宮内工房で一括生産された檜扇が貴族に分配され、広まった可能性が考えられる。当該土坑は衛府との関わりが指摘され、平安時代の四衛府による扇の進上が奈良時代に遡る可能性は既に指摘されている(『紀要 2010』)が、木工を担う木工寮や内

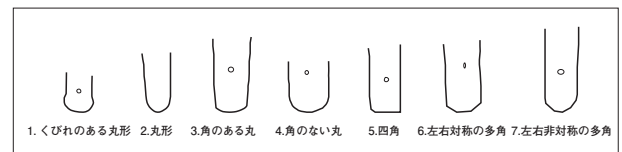


図15 SK19189における檜扇の要形態分類

匠寮ではなく、衛府が作業に従事する意義について検討を進める必要がある。承和年間には雅楽寮、木工寮、内匠寮の考人が衛府の任用対象となっていたが(『続日本後紀』承和六年八月庚戌条)、これも衛府と木工の関わりを示していると考えられる。

今回報告した資料以外は今後報告の機会を得たい。

(猪熊はるの／広島県教育委員会・国武貞克)

註

- 1) 確実に奈良時代前半といえる檜扇はSD5100、SD5300からの事例が確認されているのみである。